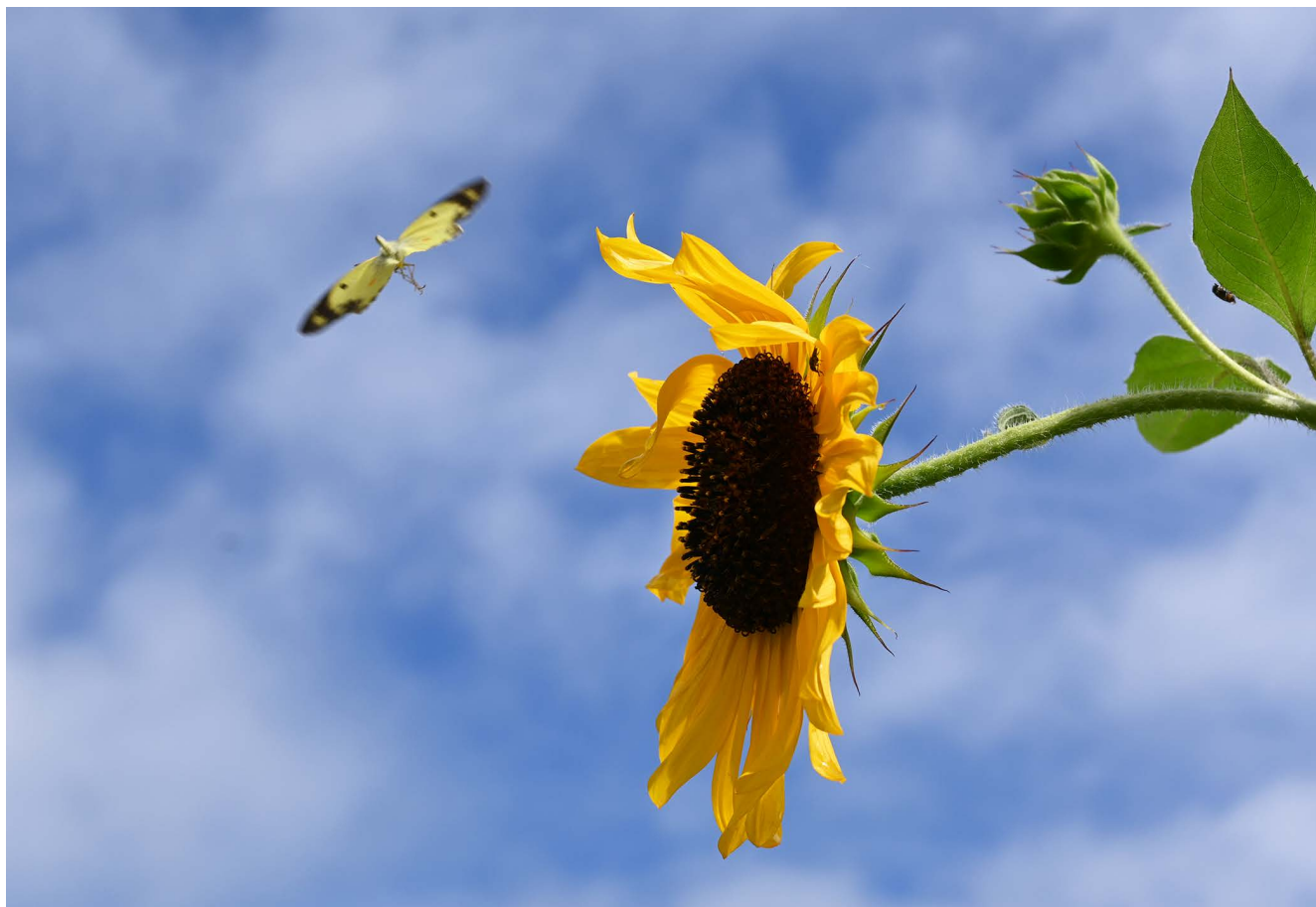




図書館で広がる学びの可能性

図書館分館長 小峰 太

大学生活は、これまで以上に「自ら学ぶ力」が求められる時間です。授業で知識を得るだけでなく、自分で問いを立て、調べ、考え、発信することが、これからの社会ではますます重要になります。その学びを支える場所の一つが図書館です。

近年では、スマートフォンやAIの発達により、多くの情報を手軽に得られるようになりました。しかし、情報があふれる時代だからこそ、「正しい情報を選び、自分の考えを深める力」が必要になります。図書館には、長い年月をかけて蓄積された信頼性の高い資料がそろっており、皆さんの学びを支える大切な役割を担っています。

また、図書館は単に本を借りる場所ではありません。静かに集中して学習できる空間であり、新しい知識や価値観に出会える場所でもあります。専門書や学術雑誌との出会いが、将来の研究テーマや進路につながることも少なくありません。偶然手に取った一冊が、自分の世界を広げるきっかけになることもあります。

大学時代は、自分自身を成長させる貴重な時間です。ぜひ図書館を積極的に活用し、多くの知識に触れ、自分なりの「学び」を深めてください。図書館は、皆さんの挑戦と成長をこれからも応援してまいります。

(教授 歯科補綴学第Ⅲ講座)



歯学部開講式

令和8年度歯学部開講式は、4月4日（土）本館大講堂（創設百周年記念講堂）において、新入生127名を迎えて挙行されました。

飯沼利光歯学部長からの式辞があり、西田香同窓会専務理事及び織井弘道後援会会長が祝辞を述べられました。続いて在校生を代表して赤松孝則さん（第6学年）が「歓迎の詞」を、新入生を代表して浦部芽衣さんが「誓いの詞」を述べました。



大学院歯学研究科開講式

令和8年度大学院歯学研究科開講式は、新入生14名（うち社会人4名）を迎え、飯沼利光歯学研究科長をはじめ関係教職員出席のもと、4月7日（火）本館大講堂（創設百周年記念講堂）において挙行されました。厳粛な雰囲気の中、飯沼利光歯学研究科長からの式辞、続いて川戸貴行研究担当からの祝辞がありました。新入生を代表して名取秀悟さんが「誓いの詞」を述べ、式終了後には修学及び研究等についてガイダンスが行われました。

既卒生に対する国家試験合格支援活動について



卒後教育担当 紙本 篤

国家試験合格支援活動小委員会では、14名の専任教員・専修医および1名の同窓会役員が委員となり、既卒生に対する国家試験合格支援を行っています。

年度初めには説明会やアンケート調査を実施し、歯科医師臨床研修マッチング支援、必修対策ミニ講義、学内外講師による特別講義、特別実習など、多様な支援を必要に応じて検討・実施しています。また、希望者には個別面談を行い、学習面のみならず生活面も含めた支援を行っています。国家試験当日まで、既卒生一人ひとりに寄り添いながら、全員合格を目指して継続的にサポートしてまいります。

（教授 総合歯科学分野）

新入生127名の内訳

男子63名（50%）、女子64名（50%）、現役67名（53%）、既卒等60名（47%）、一般選抜入学者74名（A方式59名、N方式第1期9名、同第2期2名、C方式第1期3名、C方式第2期1名）、学校推薦型選抜（付属高等学校等）20名、（公募制）5名、（指定校制）2名、校友枠選抜24名、外国人留学生選抜2名

出身高校数96校（外国の学校等を除く）：東京女学館5名、日本大学第二、日本大学第三、佐野日本大学、開智、作新学院、西部学園文理 各3名、日本大学第一、日本大学豊山、

千葉日本大学第一、わせがく、光塩女子学院高等科、青山学院高等部 各2名、ほか

出身高校の所在地県別入学者数：東京42名、神奈川、埼玉各11名、千葉10名、愛知5名、栃木、北海道4名、岡山3名、茨城、岩手、宮崎、広島、山梨、静岡、大阪、富山、兵庫 各2名、群馬、熊本、山形、鹿児島、新潟、石川、長崎、福岡、福島 各1名、外国の学校等 10名

登院式を終えて



鈴木 夢

このたび登院式を無事に迎え、医療人として新たな一步を踏み出すことができたことに、大きな喜びを感じると同時に、現場の緊張感や責任の重さを日々感じています。

これまでは、模型や学生同士で実習を行ってまいりました。しかし、臨床実習においては、患者さん一人ひとりの状態や背景が異なるため、教科書通りにはいかない場面も多く、その都度、状況に応じた判断や対応が求められることを学びました。

また、診療の見学や介助を通して、自身の知識や理解がまだ十分ではないことを痛感する機会もありました。これまで学んできた内容であっても、実際の臨床の場では十分に結びつけられないことや、理解が曖昧な部分があることに気づかされました。そのため、疑問に思ったことをそのままにせず、自ら調べ、理解を深めていく主体的な姿勢の重要性を改めて認識しています。

さらに、患者さんの治療に直接関わる場面では、自分の言動や態度が患者さんの安心感や不安に影響を与えることを強く意識するようになりました。その責任を自覚し、これまで以上に慎重かつ丁寧に行動する必要があると感じています。同時に、これまでの実習では意識の面で未熟な部分があったことにも気づかされ、医療人として高い倫理観と責任感を持って取り組むことの大切さを学びました。

今後も主体的に学び続け、知識・技術の向上に努めるとともに、患者さんから信頼され、安心して治療を受けていただける歯科医師となれるよう精進してまいります。

最後になりますが、先生方、先輩方におかれましては、日頃より多大なるご支援、ご指導を賜り、誠にありがとうございます。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。（第5学年）



クラブガイダンス



クラブ協議会会長 三浦 尚哉

4月11日にクラブガイダンスが行われました。

本学部には体育会・文化会合わせて多くのクラブがあります。新入生にとっては、自分に合ったクラブを見つける良い機会になった

のではないかと思います。

クラブ活動を通して文武両道を目指すことで、6年間の学生生活はより充実したものとなることが期待されます。また、先輩後輩との縦のつながりや、同期との横のつながりを大切にし、人間関係の幅を広げていくことも重要です。

本学部でのクラブ活動を通して得られる経験は、将来歯科医師として働く上で欠かせないコミュニケーション能力や協調性を育むことにつながります。新入生の皆さんには、ぜひ自分に合ったクラブを見つけ、6年間の活動を通して仲間とともに多くの学びと成長を得て、充実した学生生活を送っていただきたいと心から願っています。（第5学年）

球技大会を終えて

球技大会実行委員長 池田 陸

今年度の球技大会は、自分にとって今までの学生生活の中で一番印象に残る行事になりました。実行委員長を引き継いだ当初は、委員の人数不足や運営面への不安もあり、本当に大会をまとめられるのか心配でした。特に今年度は新しい取り組みも多く、先生方や実行委員との話し合いを授業の合間に行うこともあり、とても大変でした。

その中で、クラブ協議会や学年代表者との連携や、体育会クラブ部員に審判として協力してもらえたことで、少しずつ形になっていきました。運営もスムーズになり、周りに支えられて大会が成り立っていることを強く感じました。



池田さん（右から二番目）

当日は、学生や先生方が楽しんでいる姿を見て、本当に嬉しかったです。大変なことも多かったですが、それ以上に“やって良かった”と思える球技大会になりました。一方で、上級学年の参加率向上は課題であると感じました。今後は自分自身も積極的に声かけを行い、より多くの学生が参加しやすい雰囲気づくりに努めていきたいです。（第4学年）

第119回歯科医師国家試験を終えて

学務担当・学習指導委員会委員長 林 誠

第119回歯科医師国家試験は、令和8年1月31日(土)、2月1日(日)の2日間にわたり実施され、本学からは第6学年の卒業予定者121名が受験しました。3月16日(月)に厚生労働省より合格発表があり、本年は全国で2,837名が受験し、1,757名が合格しました。これは歯科医師国家試験開始以来最少の合格者数でした(新卒1,482名、既卒275名)。合格率も全体で61.9%(新卒80.2%、既卒27.8%)であり、過去10年間で2番目に低い水準となりました。

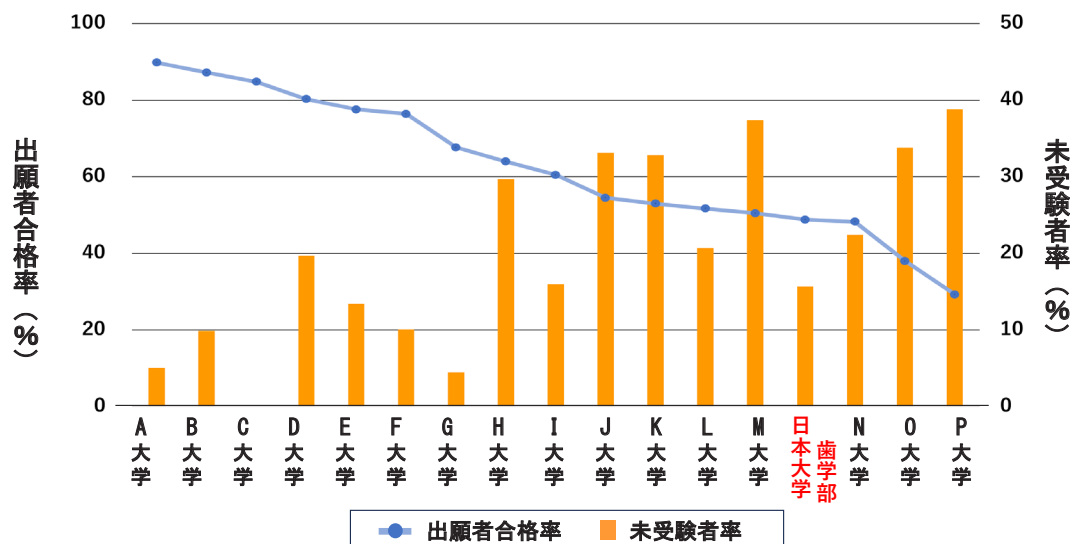
合格率の内訳は、国立大学73.9%、公立大学63.6%、私立大学58.7%という中、本学の合格率は46.4%であり、本学の新卒合格率に限ると私立大学の平均が78.4%に対して本学では57.8%と約20ポイント低く、厳しい結果となりました。厚生労働省は出願者数も公表しており、受験者数との差分は「出願はしたものの受験しなかった(できなかった)者」と考えられ、出願者合格率(下図の折れ線グラフ)や未受験者率(下図の棒グラフ)も算出できます。その結果、本学の出願者合格率は48.8%(私立歯学部平均:62.5%)であり、未受験者率は15.7%(私立歯学部平均:20.2%)でした。

本学では歯科医師国家試験合格の可能性が見込まれる学生を積極的に卒業認定し、未受験者率を抑えながら受験機会を確保する方針です。しかしながら、今回のような合格者数や全国合格率の変動に関わらず、十分な合格率を得るための対策を早急に講じる必要があると考えております。令和8年度の具体的な取り組みとしては、教育力の向上を目的として教学データを一元的に収集・解析する部署として、新たに歯学部教育質保証センターを設置しました。現在、本センターにおいては、国家試験合格率の向上を最重要課題

として取り組んでおり、今回の結果分析に基づいたカリキュラムの改善に学務委員会とともに努めています。また、学生が主体となって学力向上を目指すことを目的として設置された学修向上委員会と密に連携し、小規模な班編成のもと、多くの教員やティーチングアシスタントを配置して、個別指導を重視した教育を行っています。さらに、これまで行ってきた授業動画のオンデマンド視聴などのデジタル環境も継続しながら、質の高い教育を目指してまいります。

近年の国家試験では、単に知識を記憶しているだけでは解答が難しく、患者情報や検査所見を総合的に判断しながら適切な診断や治療方針を導き出す能力が強く求められるようになっていきます。特に臨床実地問題では、実際の臨床場面を想定した出題が増加しており、臨床経験に基づいて考える力が重要となっています。そのため、本学では講義による知識の習得に加え、第5学年から開始される診療参加型臨床実習を重視し、学生が実際の診療を経験しながら学ぶ機会の充実に努めています。また、近年の出題傾向として、基礎系科目と臨床系科目を関連付けて考える統合型の問題や、複数の分野にまたがる総合的な問題が増加しています。国家試験対策は高学年になってから始めるものではなく、低学年からの着実な学修の積み重ねが極めて重要です。日々の授業や実習を通じて幅広い知識を身に付けるとともに、得られた知識を実際の問題解決に応用する力を養うことが、国家試験合格への大きな力となります。学生の皆さんには、歯科医師国家試験を単なる卒業後の試験として捉えるのではなく、6年間にわたる学修成果を確認する重要な節目として位置付けていただきたいと思います。(教授 歯科保存学第Ⅱ講座)

第119回歯科医師国家試験 出願者合格率(新卒)



研修歯科医採用について



卒後教育担当 紙本 篤

日本大学歯学部附属歯科病院では、学部教育で習得した歯科診療に関する知識・技能・態度を、臨床の現場へ円滑に結び付けることを目的として、9種類の歯科医師臨床研修プログラムを実施しています。研修プログラム

は、研修施設および研修期間の違いにより、大きく二つに分類されます。

一つ目は、管理型臨床研修施設である本院と、協力型（Ⅰ）臨床研修施設である歯科診療所等を、それぞれ6か月間研修するプログラムです。本院では、口腔外科、保存科、口腔診断科・小児歯科（希望選択）、補綴科の中から主たる研修診療科を選択し、前期または後期に研修を行います。本区分には8種類のプログラムが設けられており、それぞれの専門性を生かした研修が可能となっています。大学病院における高度かつ専門的な診療に加え、地域歯科医療の現場も経験することで、幅広い視野を持った歯科医師の育成を目指しています。

二つ目は、本院を中心として1年間研修を行うプログラムです。主たる研修は総合診療科で実施し、院内各診療科との連携研修に加え、協力型（Ⅱ）臨床研修施設への出向研修も経験します。また、島しょ地区（伊豆諸島）での離島歯科診療研修を通じ、地域歯科医療や多様な診療環境に触れる機会も設けられています。こうした経験は、地域医療への理解を深めるとともに、患者背景に応じた柔軟な対応力を養う貴重な機会となっています。

本年度の募集定員は109名ですが、本院の臨床研修プログラムには他大学からの応募者も年々増加しており、高い関心が寄せられています。選考は書類審査、面接、筆記試験によって行われ、学業成績のみならず、受講態度や協調性、積極性なども重視しています。選考後は歯科医師臨床研修マッチングを経て、翌年度の研修が開始されます。

第6学年の皆さんが国家試験に合格され、本院で充実した臨床研修を開始されることを心より期待しています。（教授 総合歯科学分野）

歯科医師臨床研修を終えて

加島 みのり

日本大学歯学部附属歯科病院での研修を通じて、個々の処置にとどまらず、患者全体を見据えた包括的な治療の重要性を学びました。また、難易度の高い症例に対しても、1年目であることを理由に避けるのではなく、自ら考え取り組む姿勢を持てたのは、そのような経験を積む機会と環境が整っていたためであると感じています。指導は時に厳しいものでしたが、その一つ一つが自身の成長につながり、将来の臨床に必ず活かせる経験となりました。今後もこの学びを礎に、より良い歯科医療の提供に努めていきたいと考えています。

（本学部卒業）



鄭 歡研

研修歯科医として過ごしたこの1年間は、長いようで短く、あっという間に過ぎていきました。初めは慣れない環境の中で不安や緊張もありましたが、日々の診療やご指導を通して、少しずつできることが増え、自分なりに成長を実感できた1年となりました。

診療を通して、知識や技術だけでなく、患者さんに安心していただけるような声かけや対応の大切さも学びました。また、自分の力不足を感じて落ち込むこともありましたが、そのたびに先生方や総合診療科2の皆さまに支えていただき、前向きに取り組むことができました。

この1年間で経験したこと、学んだこと、感じたことのすべてが、これからの自分につながっていくと思います。支えてくださった皆さまへの感謝を胸に、今後も一つひとつの経験を大切にしながら成長していきたいです。そして、迷うことがあっても勇気を持って一歩踏み出し、自分が後悔しない選択を大切にして進んでいきたいと思っています。（他大学卒業）



京都校外研修

クラス担任 角田 麻里子

令和7年度第5学年校外研修は、令和8年3月5日（木）から6日（金）にかけて実施され、学生76名（男子43名、女子33名）及び教職員7名が参加した。今回の研修では京都を訪れ、（株）モリタ製作所ならびに（株）松風の見学を行った。特に（株）松風の見学は久しぶりの実施となり、学生にとって大変貴重な機会となった。

各施設では、歯科医療機器や歯科材料の製造工程、品質管理、開発への取り組みなどについて説明を受けた。5年生はすでに臨床実習を終えていることから、実際の診療現場で使用してきた機器類や材料がどのように製造されているのかを直接見学でき、理解を深める大変有意義な機会となった。担当者への質問も活発に行われ、学生たちの高い学習意欲がうかがえた。また、引率教員の中には学生時代に同様の研修へ参加した者もあり、当時を懐かしく振り返るとともに、改めて多くを学ぶ機会となった。

研修初日の夜には宿泊先において懇親会が開催され、教職員と学生が交流を深める中で会場は終始大いに盛り上がった。国家試験を目前に控えた5年生同士の親睦もより深まり、学年としての団結力を一層強める貴重な時間となった。また、長年校外研修の引率を務めてこられた山岡先生（物理学）にとって、今回が最後の引率となり、学生・教職員から感謝の言葉が寄せられた。

最後に、本研修を快くお引き受けいただきました（株）モリタ製作所ならびに（株）松風の皆様に心より感謝申し上げます。また、研修実施にご尽力いただいた教職員の皆様、並びに温かいご支援を賜りました後援会の皆様に深く御礼申し上げます。

（助教 病理学講座）

赤松 孝則

校外研修委員を務めました赤松孝則です。3月5日・6日の1泊2日の日程にて、5年次最後の行事となる京都校外研修が行われました。初日はまず（株）モリタ製作所を訪問いたしました。歯科ユニットやX線照射器の歴代の変遷を展示にて学んだ後、実際の製造工場を見学いたしました。普段何気なく使用している診療機器が、想像を超える繊細な工程を経て完成していることを目の当たりにし、ものづくりに携わる方々への深い敬意を覚えました。卒業後は一層大切に扱いたい、と心に強く誓いました。午後は清水寺周辺にて昼食をとり、八坂神社まで足を延ばしながら京都の街並みを散策いたしました。その後、（株）松風を訪問いたしました。松風が清水焼に由来を持ち、陶歯の製造からその歴史が始まったことや、義歯の変遷について詳しくご教示いただきました。江戸期の象牙と木材で作られた入れ歯の実物を目にした際の驚きは、今なお鮮明に記憶に残っております。また、お歯黒とサホライドの歴史的なつながりは、歯科医学と日本文化が交差する、誠に興味深い学びとなりました。夜はお宿いしちようにて懇親会が催され、学年主任の野間教授のご発声のもと、学年全体で和やかに親睦を深めました。令和7年度末でご退任された山岡先生からの温かいご挨拶には、感謝と惜別の念が込み上げるものがございました。翌朝、清々しい心持ちで目を覚ました折、晴れて6年生へと進む実感をしみじみとかみしめました。いよいよ国家試験へ向け、一同気を引き締めて臨む所存でございます。後援会の皆様、ご引率いただいた先生方に、心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。（第6学年）



第1学年オリエンテーション

令和8年度新入生オリエンテーション（4月3日、4日・歯学部校内）及び第1学年オリエンテーション（4月17、18日・日本大学軽井沢研修所）が開催されました。

第1学年担任 新井 聡美

担任、また新任教員として参加したオリエンテーションが、無事に終了しました。学内で実施された新入生オリエンテーションでは、入学から間もないこともあり、学生は緊張の面持ちで、講堂も静寂に包まれていましたが、軽井沢研修所の夜はすっかり打ち解けた様子で実に楽しそうな笑い声に溢れていました。「はじまりの私から未来の私へ」と題した企画では、学生たちに将来に向けての抱負などを自由に記載してもらいました。その姿を見ながら、図らずも自身の思い描いていた将来像を振り返るきっかけとなり、初心を忘れずにいることの大切さをあらためて感じました。数日間にわたるオリエンテーションが大きな事故もなく終えられたことに、企画運営に携わった教職員及び大学院生の皆さんに、この場をお借りして感謝申し上げます。

（助教 歯科補綴学第Ⅲ講座）

オリエンテーション同行大学院生 林 みに彩

オリエンテーションに大学院生として同行することで、新入生の学生生活を充実させるための先生方の創意工夫の一端に触れることができました。私は友人が少ないですが、それでも6年間で幾度も同期や先輩に助けてもらい卒業できたため、困った時に声をかけられる関係性を築く重要性を知っています。数週間前まで知らない者同士だった同期と寝食を共にすることに不安もあったかと思います。しかしながら、様々な取組みを通じて歯科医を志す仲間として親睦を深めることができたようで、消灯後も話し込む様子や楽しそうに軽井沢散策する姿を見て安心しました。この2日間で、私自身も普段顔を合わせる機会の少ない先生方や後輩達と交流ができました。今までは先生方に導かれる立場でしたが、この経験を後輩達に還元していきたいです。

（大学院第4学年 衛生学講座）

浦部 芽衣

新入生代表として開講式で挨拶をさせていただきました。当初は代表を務めることに緊張していましたが、壇上で誓いの言葉を述べる中で、歯科医師を目指す決意を改めて強くすることができました。4

月3日に行われた新入生オリエンテーションでは、カリキュラムや学びの進め方について分かりやすく丁寧に説明をしていただき、入学当初に感じていた学習面での不安が和らぐとともに、今後の見通しをより具体的に持つことができ、学びへの意識が一層高まりました。また、先生方から歯学部生としての責任や心構えについてのお話を伺い、専門職としての自覚の重要性を深く実感しました。これらの経験を通して、歯科医師を目指す者としての自覚を持ち、仲間とともに切磋琢磨して学生生活を送り、日々の学習に取り組んでいきたいと考えています。

（第1学年）

長谷川 怜那

2日間にわたって行われた第1学年オリエンテーションで、一番印象に残っているのはグループワークです。私のグループは11人グループでした。知っている人が1人で、最初は不安でしたが、他己紹介で趣味が同じ人と偶然ペアになったり、ゲーム「Guess who?」では、楽しすぎて3回目を先生にお願いするほど盛り上がり、皆と仲良くなれました。2日目の散策ではグループ全員で行動し、そばを食べたり、雲場池や商店街に行ったりしました。結構な距離を歩きましたが、道中の自然や街並みを楽しみながら色々な話ができ、とても充実した時間になりました。「トモダチ100人出来るかな」という企画のおかげで、積極的に人に話しかける学生が多かったと思います。オリエンテーションが終わった後もたくさんの仲間に話しかけ、全員で進級できるような良いクラスにしていきたいとあらためて思いました。

（第1学年）



第58回 全日本歯科学生総合体育大会

歯学体正評議員 木原 亜麻未



令和8年度歯学体正評議員を拝命いたしました、第5学年の木原亜麻未と申します。今年度も全国の歯学部・歯科大学が一堂に会する全日本歯科学生総合体育大会が開催されます。昨年度、本学は総合優勝という素晴らしい成績を収めました。私自身も硬式庭球部として大会に出場し、女子団体戦準優勝という結果で総合成績に貢献できたことを大変嬉しく思うとともに、多くの学びと成長を実感いたしました。試合を通して得られた達成感だけでなく、悔しさや葛藤も今振り返れば自分を大きく成長させてくれた大切な経験です。本大会は競技力の向上だけでなく、仲間との絆を深め、他大学との交流を広げる貴重な機会でもあります。学業とクラブ活動の両立は決して容易ではありませんが、その中で努力を重ねてきた皆さんの姿は非常に素晴らしいものです。これまで支えてくださった方々への感謝を胸に、自分の力を最大限に発揮し、最後まで全力で挑戦してください。(第5学年)

学生会から

学生会会長 今井 日菜子



令和8年度学生会会長を拝命いたしました、第5学年の今井日菜子と申します。昨年度より学生会の役員として運営に携わらせていただいております。自主創造の精神の下、主体的に様々な改革を行う先輩方の姿を見ながら、学生会が担う役割の重大さを実感いたしました。この勢いを絶やさぬよう、真摯に活動に臨んでいく所存です。

学生会の主な活動内容といたしましては、年に1回行われるリーダーズキャンプの運営、大学における学修環境、生活環境の改善などが挙げられます。一人の学生として、学生の声を一番近い立場で聞き、先生方のご協力をいただきながら企画運営を行っていくと共に、勉学においても部活動等においても高め合えるような環境づくりを目指して参ります。

一人一人が国家試験合格に向け有意義な学生生活を送れるよう、精力的に活動をしていく所存ですので、今後ともご理解ご協力のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。(第5学年)

桜歯祭に向けて

桜歯祭実行委員長 衛藤 巧



皆様いかがお過ごしでしょうか。私は勉強に実習に忙しくも充実感のある日々を過ごしております。そして、今年度も桜歯祭を開催させていただけるということのありがたみを噛みしめながら準備に勤しむ毎日です。実行委員長としての私の目標は、歯学部生の大学生活の中で1番楽しい1日にすることです。この大学生活の中での楽しさとは、勉強、テスト、実習。勉強、テスト、実習。繰り返す日々はそんなことを思案する時間すら与えてくれません。しかし、桜歯祭はそんな生活の中で数少ない「楽しい」を純粋に体験できる日ではないでしょうか。普段目につくものは、真っ白な校舎、白衣、テスト用紙、歯の模型。どこもここも、誰も彼も、見渡す限りの白。でも、真っ白なキャンパスにはなんだって描けます。無機質な白は楽しさで彩りましょう。本番は10月30日と31日。そこに広がる景色はどんなハロウィンパーティーよりも素敵なものになっている。そう信じています。(第4学年)

実験動物慰霊祭

春雨に新緑の色濃さが増す4月18日(土)、歯学部実験動物慰霊祭が両国の回向院にて厳かに執り行われました。会場には教職員をはじめ、大学院生、学部学生が参列し、静かな祈りのひとときをともにしました。住職による法話では、私たちが得る学びや研究成果の陰には、多くの支えや尊い命があることを忘れず、感謝の心を持つことの大切さについてお話がありました。その後、読経に続き、飯沼学部長、伊藤経理長による指名焼香、続いて参列者一同による焼香が行われました。参列者は、本学部の教育・研究の発展に寄与してきた実験動物への感謝を胸に、その冥福を静かに祈りました。飯沼学部長は参列への謝意を述べるとともに、「動物実験は医学の研究および教育の発展に欠かすことのできないものである。一方で、3Rの原則(代替、削減、改善)を改めて心に刻み、日々の研究・教育に真摯に取り組んでほしい」と挨拶されました。



海外派遣報告

石井 亮

2025年7月16日から2026年1月4日まで、米国ネブラスカ州オマハのクレイトン大学歯学部滞在中、Mark A. Latta教授のもとで歯科材料の耐久性評価に関する研究に取り組みました。今回の留学では、新しい実験手法に触れるだけでなく、自分が日頃向き合っている研究を異なる視点から見直す機会を得ることができました。また、この留学は日本大学歯学部保存学教室修復学講座とクレイトン大学歯学部との継続的な交流の中で実現したものであり、滞開始直後には住居や車の手配など生活基盤の整備にも多くの支援をいただき、早い段階から研究に集中できる環境を整えることができました。

現地では、摩耗試験、接着疲労耐久性試験、曲げ疲労試験などに取り組みました。このような評価を続ける中で、耐久性とは、一度の測定結果ではなく、時間や負荷の積み重ねの中で現れる変化を見ていくものだと感じました。その感覚は、留学生活においても、一日一日の積み重ねがようやく形になっていく実感と重なりました。

研究に集中する日々を送る一方で、異国での単身生活は決して容易なものではありませんでした。そのような中、日本語を学ぶ学生との交流や、サンクスギビング、クリスマスなど地域の方々と過ごした時間は、張り詰めた日々の中でほっとできる時間となりました。さらに、Latta教授ご夫妻には研究面だけでなく生活面でも温かく接していただきました。家族がオマハを訪れた際に一緒に食事の時間も、私にとって心に残る思い出となりました。

今回の留学で得た新たな視点や経験を、今後の研究と教育に還元していきたいと思います。こうした貴重な機会を与えてくださった日本大学、ならびにご支援くださった講座の先生方に深く感謝申し上げます。
(助教 歯科保存学第Ⅰ講座)



海外派遣報告 ペンシルベニア大学

本田 順一

2025年4月から2026年1月まで、アメリカ合衆国ペンシルベニア州フィラデルフィアにあるペンシルベニア大学歯学部へ留学する機会をいただきました。歯学部の中でも最も大きい講座である「Preventive & Restorative Sciences」に所属し、接着歯学の世界的権威であるMarkus Blatz教授のもとで研究や臨床見学を行ってきました。

フィラデルフィアはアメリカ独立宣言の地として有名で、観光名所である「自由の鐘」や「ロッキー像」さらに、公共機関に徒歩でアクセスしやすい魅力的な都市である一方で、治安面では日本との違いに驚くことも多く、渡米直後は生活環境にかなり苦労しましたが、大学のサポートもあり、キャンパス周辺で安心して生活することができました。

研究では、ジルコニアの接着に関するせん断接着試験に取り組みました。試験片の製作など初めて経験することも多く、ラボと指導教員室を往復する日々でしたが、多くのことを学びました。さらに、指導教授のBlatz教授から論文作成について直接指導を受けることができ、自身の研究を論文という形にまとめていく過程は非常に刺激的でした。

さらに、補綴科レジデントプログラムにも参加することができ、アメリカの補綴歯科治療や歯学部の学生教育についても学ぶことができました。特に、デジタルデンティストリーを活用した治療計画の立案や治療ステップに関し



て学ぶことができ、今後の本学への教育に還元していきたいと思いました。

今回の海外派遣を通して、研究だけでなく働き方や臨床・教育に対する価値観も大きく変わりました。アメリカで経験したことを今後の研究・教育・臨床に生かしていきたいと思っています。最後に、このような機会を与えていただいた小峰太教授と、講座員には厚く御礼申し上げます。

(専任講師 歯科補綴学第Ⅲ講座)

日本大学 オーストラリア・ ニューカッスルグローバル研修

日本大学本部主催・短期海外研修「オーストラリア・ニューカッスルグローバル研修」(2026年3月2日～28日)に本学部から2名の学生が参加しました。

山田 あいら

G'day! 今回のニューカッスル研修は、私にとって人生初の留学でした。出発前は語学力やコミュニケーション能力の向上が目標でしたが、研修が進むにつれては「自分が納得できる人生や将来像」を考える貴重な機会となりました。慣れない異国の生活に失敗することや自分の意思を思い通りに伝えられず悔しさを感じ、自分の未熟さを実感する事も多くありました。一方で、現地学生へ自ら声をかけたり、イベントへ参加したりする中で、「完璧な英語より伝えようとする姿勢」が大切だと学びました。また、学生同士が国籍や専攻を超えて交流する姿に、日本との文化の違いも感じました。日本大学の他学部学生と助け合いながら過ごした経験にも感謝しています。今回の研修で得た行動力や価値観の変化を今後の学生生活や将来目指す歯科医師像につなげていきたいです。(第3学年)



研修仲間と(山田さん右)

本島 和佳奈

私は、英語力を高めたい、海外の友達が欲しいと思い研修に参加しました。研修での英語の授業では、オーストラリアのスポーツや風景に関するプレゼンテーションをグループで行いました。オーストラリアについて学ぶことができたのはもちろんのこと、視聴者の注目を集めるために質問をしたり、大きな声で話すなどプレゼンテーションのやり方についても深く学べました。さらに驚くべきことに、現地の先住民族の方が直接彼らの生活について教えてくれる授業もありました。また、放課後には日英クラブというサークルに参加し、現地の学生と交流し、友達を作ることができました。休日には、サーフィンのレッスンを受けたり、動物園に行っておカンガルーと触れ合ったり、水族館でエイやサメに触れるという貴重な体験もできました。たくさんの学びを得られたとても楽しい研修となりました。参加して良かったと心から思います。(第2学年)



研修仲間と海辺を散歩
(本島さん右)

ロードレースと学業との両立

岡田 陽大

私は現在、ロードレーサーとして世界各国を転戦しています。ロードレーサーと聞くと自転車競技を思い浮かべる方も多いかもしれませんが、私が取り組んでいるのはエンジン付きのオートバイでサーキットを走るモータースポーツです。

現在参戦している「FIM R3 World Cup」は、20歳以下のライダーを対象とした世界選手権であり、世界最高峰カテゴリーの一つであるワールドスーパーバイク選手権と併催され、主にヨーロッパ各国で開催されています。昨年度、18歳以下を対象とした「R3 Asia Pacific Championship」で年間チャンピオンを獲得したことを評価していただき、2026年・2027年シーズンのFIM R3 World Cupに参戦しています。

「なぜライダーが歯学部にいるのか」と驚かれることもあります。私は歯科医師の家系に生まれ、幼い頃から将来は歯科医師になるものだと思って育ちました。一方で、小学1年生からレースを始め、成長するにつれて「レースの道に進むか、歯科医師を目指すか」で何度も悩みました。その気持ちを家族に相談した際、「どちらも応援するから挑戦してみなさい」と背中を押してもらいました。家族の支えがあったからこそ、今こうして夢に向かって挑戦を続けることができています。

歯学部生としては少し珍しい活動をしていますが、大学では他の学生と変わらない日々を過ごしています。授業を受け、課題に取り組み、試験勉強をし、イベントや部活動にも参加しています。そんな「普通の学生生活」が、世界を転戦する私にとって大きな支えになっています。レースで思うような結果が出ず落ち込むことがあっても、大学に戻ればいつもの仲間がいて、普段どおりの日常があります。その環境が、前を向く力を与えてくれます。

また、先生方や先輩方、友人からレース前に温かい応援の言葉をいただくことも多く、そのたびに「この大学に入学して本当に良かった」と感じます。応援してくださる皆様への感謝を忘れず、これからも歯学とレースの両立に全力で取り組み、世界の舞台上で活躍できるよう挑戦を続けてまいります。今後とも応援していただけると幸いです。(第1学年)



Rd.2 Spain Aragon Race1にて初の表彰台(第3位)



前列左から二人目

随 想

歲月人を待たず



鈴木 直人

日本大学歯学部にて奉職して35年が経とうとしています。歲月が流れ、定年という節目が現実味を帯びてきました。振り返れば、これまでの時間は決して直線的な歩みではなく、試行錯誤

と学びの連続だったと思います。

教育においては、本学の理念である「自主創造」を軸に、その3つの要素、「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道をひらく」が挙げられています。「自ら学ぶ」には、豊かな知識と教養が必要になります。そのため学生のみなさんに向き合った講義、演習、実習を行うことによって「自ら学ぶ」基礎力を築くために授業方法を工夫してきました。「自ら考える」には問題発見・解決力が必須です。学生の皆さんとの双方向的な授業を増やしてきました。「自ら道をひらく」にはあきらめない気持ちで挑戦する力やコミュニケーション能力が要求されます。これらを教員として学生指導に反映できたのかには自信がありません。しかし、学生の皆さんが歯科医療人として小さな成功体験を積み重ね、成長していく姿を見ることは、教育に携わる者として何よりの励みであり、喜びでした。

生化学、口腔生化学並びに分子生物学分野の研究では、生体の代謝や疾病機構の解明とその治療法の開発など幅広い分野で「未知の世界に踏み込んで功明を見いだす喜び」を知ることができました。1996年頃までは、骨芽細胞の細胞生物学的・分子生物学的研究を行ってきました。その集大成がカナダ・トロント大学Medical Research Councilでの2年間でした。帰国後は臨床の手技や材料のエビデンスを探る研究を続けてきました。

また、学部運営においては学生担当、学務担当、研究担当を拝命し、貴重な経験をすることができました。

今思うのは、これまでの経験を次世代に引き継ぐことの重要性です。私の経験が未来を担う次世代の人たちの一助となることを願い、残された時間を大切に過ごしていきたいと思います。(教授 生化学)

第78回日本大学 歯学会総会・学術大会

滝澤 慧大

5月17日(日)、歯学部創設百周年記念講堂において、第78回日本大学歯学会総会・学術大会が開催されました。本大会では、特別講演1題、一般講演16題に加え、総合歯学研究所研究報告会として5題の発表が行われました。特別講演では、基礎自然科学分野の中野善夫教授が「機械学習を用いた唾液中口腔細菌叢に基づく口臭予測」を講演しました。一般講演では、大学院生が日頃の研究成果を発表し、活発な学術交流が行われました。総会では各議案が承認されたほか、奨励賞授与式が執り行われ、西澤英里佳(口腔外科学第Ⅱ講座)、岡野真之(歯科保存学第Ⅱ講座)、鬼澤崇(歯科保存学第Ⅲ講座)、林みに彩(衛生学講座)、篠原理恵(歯科矯正学講座)の大学院生5名が表彰されました。

研究活動は、臨床で生じる疑問を科学的に探究し、論理的思考力や発信力を養う貴重な機会です。本大会は、若手研究者の成長と将来の歯科医療の発展を支える有意義な場となりました。(口腔内科学講座)

歯学部後援会総会

父母を会員とする歯学部後援会総会が6月6日(土)に本館大講堂(創設百周年記念講堂)にて開催された。開催に先立ち名誉会長である飯沼利光歯学部長、織井弘道後援会会長より挨拶の後、林誠学務担当より学務関係に関する報告、菊入崇学生担当より学生生活の活動に関する報告がなされた。今総会では、承認された新役員により臨時役員会を別室で開催し、役員の互選により新会長として佐藤梨里氏が選出された。令和7年度決算及び事業報告、令和8年度予算及び事業計画とすべての案件が承認された。

総会終了後、学年別懇談会が行われ、学年主任、クラス担任、学務委員により学務・学生生活に関することが報告された。その後銀座アスターにおいて懇親会が開催された。



ほけん室 から

ほけん室から

新年度が始まり3か月が経ちました。新しい環境や友達、初めての授業・実習など環境の変化の中ちょっとからだや心が疲れてきている人がいるかもしれません。こんなサインがある人は要注意です。体に現れるサイン：だるい、すぐ疲れる・なかなか眠れない・食欲がない・朝、起きられない、心に現れるサイン：いつもイライラしている・やる気が出ない・ため息がよく出る、言葉や行動に現れるサイン：まちがう事が多い・身だしなみをあまり気にしなくなった・あまり話したくない。悩みがあり自分で解決策が見つからない時は、友達、先輩、先生、家族に相談してみましょう。相談するほどでもないかも。そんな時は①体を動かす②今の気持ちを書いてみる③深呼吸する④自分の事を褒めてみる(できない事よりもできる事に目を向ける)⑤湯船につかる⑥早めに寝る等のセルフケアは心が疲れた時有効な手段です。保健室ではからだのケアは毎週水曜日午前9時30分から11時30分に米原医師が、心のケアは第2・4木曜日午後3時から5時に精神科医の大槻医師が在室し相談も行っています。ひとりで抱え込まず気軽にお願いします。



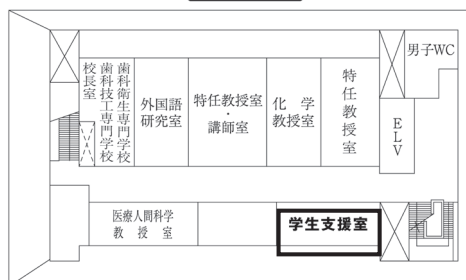
学生支援室より

学生支援室では、皆さんが充実した学生生活を過ごせるように、様々な相談に応じています。どんなにささいなことでも、気になることや困っていることがあれば、気軽にご相談ください。

電話相談【03-3219-8051(支援室直通)】

ご家族からのご相談も受け付けています。内容について秘密が漏れることは一切ありませんのでご安心ください。支援室は3号館7階にあります。水・木・金曜日の10時～17時と火曜日の11時～18時に、日本大学本部学生支援センター所属の臨床心理士が相談を担当しています(曜日ごとに担当するカウンセラーが異なります)。

3号館7階



歯学部進学相談会

6月14日(日)に第1回進学相談会を開催しました。今年度は新たな企画として「模擬授業」を加え、全体説明会、在学生による歯学部紹介、校内見学及び希望者に対して個別相談及び校友枠選抜全体説明会を実施しました。また、在校生との対話コーナーを設け好評を得ました。

引き続き、相談会を以下の日程で実施します。

	開催日	定員(事前予約制)	受付開始	時間
第2回	7月26日(日)	各回150名	各回9:30	各回10時開始
第3回	8月23日(日)	※定員には同伴者を含む		
第4回	10月31日(土)	桜歯祭と共催・相談ブースのみ (事前予約不要)		

※実施内容、申込方法等は歯学部ホームページを御確認ください。

●Webオープンキャンパス

歯学部ホームページで、歯学部紹介やバーチャル校内見学を公開しています。

【問合せ先】

歯学部 教務課

03-3219-8002 E-mail: de.academic@nihon-u.ac.jp

専門学校進学相談会

●令和8年度進学相談会日程

	開催日	時間	場所
第3回	7月5日(日)	10:00～13:00	専門学校講堂
第4回	8月23日(日)	10:00～13:00 附属歯科技工専門学校 予約制 (当日参加も歓迎)	専門学校講堂
第5回	10月31日(土) 駿技祭 翔衛祭	附属歯科衛生専門学校 完全予約制 予約電話 03-3219-8007	日本大学 歯学部 本館内

※令和8年10月31日(土)については、個別相談と学校見学のみ実施

場 所：日本大学歯学部3号館

概 要

●個別相談：本学専任教員が各種相談を承ります。

●校内見学：講義室、実習室等を見学します。

●体験実習：技工専門学校：カラフルな歯を使用してストラップを作製。

衛生専門学校：毎回違う体験実習を用意しています。

■附属専門学校から

歯科技工専門学校

本年度、本校は大山哲生新校長と竹内義真教務主任による新体制で新たな一步を踏み出しました。今春は23名の新生を迎え、全学年計56名が各講義室及び第5実習室にて日々研鑽を積んでいます。昨今のデジタル化に対応すべく、CAD/CAMシステムを導入した新カリキュラムにより、時代に即応できる人材育成に注力しております。また、臨時職員制度の導入など指導体制も強化いたしました。実習を支えてくださる先生方や歯学部兼任講師の皆様に深く感謝し、教職員一丸となり教育環境の充実に努めてまいります。



歯科衛生専門学校

令和8年度の歯科衛生専門学校は、第1学年24名、第2学年38名、第3学年32名の計94名の学生が在籍しております。現在、第1学年は新しい環境に慣れ始め、第2学年は病院実習に向けた臨床的な学修に励み、そして第3学年は学びの集大成に取り組むなど、各学年がそれぞれの目標に向かって日々邁進しております。また、5月14日に開催されました歯学部球技大会におきましては、惜しくも入賞は逃したものの、3学年とも一丸となって健闘いたしました。教職員一同、学生一人ひとりが充実した学校生活を送り、夢に向かって歩んでいけるよう、今後も全力で支援・応援してまいります。今後とも変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



NewsPlus α

☆夏季期間中の図書館開館時間

以下の期間は夏季短縮期間となります。

日 程：7/21 (火)～8/15 (土)

開館時間：9：00～17：00

休 館 日：土、日、祝、休校日

詳細はHPのカレンダーをご覧ください。

<https://www.dent.nihon-u.ac.jp/library/>



☆定期健康診断

4月24日(金)・25日(土)に本学部生、大学院生及び専門学校生を対象として、内科健診、胸部X線間接撮影、尿検査、身長・体重測定等実施され、100%に近い受診率であった。

学 事

歯学部行事予定

- 8月23日(日) 第3回進学相談会
- 9月26日(土) 大学院歯学研究科入学試験(第1期)
- 10月4日(日) 日本大学創立記念日
- 10日(土) 父母懇談会
- 17日(土) 外国人留学生選抜、編入学・転部試験
- 30日(金) 桜歯祭
- 31日(土) 桜歯祭・進学相談会(相談ブースのみ)

入学者選抜等

令和8年度歯学部入学者選抜(実績)

一般選抜	試験日	志願者数	受験者数
N全学統一方式第1期	令和8年2月1日(日)	279名	257名
N全学統一方式第2期	令和8年3月4日(水)	249名	215名
A個別方式	令和8年2月3日(火)	280名	253名
C共通テスト利用方式第1期	—	146名	139名
C共通テスト利用方式第2期	—	47名	46名

令和8年度大学院歯学研究科入学試験(実績)

		試験日	志願者数	受験者数
第1期	一般	令和7年9月27日(土)	5名	5名
	社会人		0名	0名
第2期	一般	令和8年2月28日(土)	5名	5名
	社会人		4名	4名

科学研究費助成事業採択者

(令和8年4月1日付、課題番号順)

- ☆基盤研究 (B)
- 篠田 雅路 今井 健一 小林 真之
- ☆挑戦的研究 (萌芽)
- 今井 健一
- ☆基盤研究 (C)
- 浦田健太郎 山本 清文 秋田 大輔 野間 昇
- 林 良憲 松本 邦史 阿部 仁子 清水 康平
- 渡辺 孝康 平場 晴斗 岩崎 太郎 二宮 禎
- 池田 貴之 李 淳 小柳 裕子 岡田 明子
- 澁田 郁子 菊入 崇 白川 哲夫 近藤 真啓
- 中井久美子 雨宮 俊彦 岩田 幸一 藤田 智史
- 藤原 恭子 田邊奈津子 田村 宗明 山崎 洋介
- 飯田 崇 岡崎 章悟 川崎 詩織 玉川 崇皓
- 鈴木 裕介 坪井 美行 江島堅一郎 川戸 貴行
- 馬谷原琴枝 蓮池 聡 中谷 有香 角田麻里子
- 山本安希子 鐸田 武志 中野 善夫 納村 泰弘
- 小峰 太 田中 秀樹 丸岡 豊 武田 守
- ☆若手研究
- 関 啓介 安川 拓也 渡辺 典久 岡田 真治
- 河合 佳奈 小方 彩乃 竹鼻 康輔 間中総一郎
- 高田 宏起 木谷 仁 古川 明彦 酒井 嶺
- 栗栖 諒子 尾辻 盛 髭内 美穂 須田 駿一
- 大熊理沙子 梶原 美絵 長崎 真希 廣瀬 健佑
- 陳 睿妍 疋田 光波 金子 啓介 小林 理美
- ☆研究活動スタート支援
- 今岡 紗耶 澤田 憧 藤樹 立明 長谷 賢知
- 大熊理沙子
- ☆特別研究員奨励費
- 川崎 詩織
- ☆国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化)
- 中谷 有香
- ☆学術変革領域研究 (A) (公募研究)
- 鐸田 武志

学生生活

特待生と奨学生

= 日本大学特待生 =

第2学年	本間真央子 (乙)	第5学年	前田 智香 (乙)
第3学年	小山 詩織 (乙)	第6学年	本平 一輝 (甲)
第4学年	楠美 周平 (乙)		

= 佐藤奨学生 =

〈第1種〉

(歯学部)			
第2学年	坪井 隆道 尾崎 将之 森本 一輝		
	野口 幸希 春日山咲楽 藤井 涼太		
第3学年	勝見 知峻 箕輪 時希 山田 愛瑠		
	佐賀帆乃佳 佐々木惺愛 原 清太郎		
第4学年	木村 遼 梶浦 大暉 矢野 智大		
	川北雄一郎 他2名		
第5学年	鈴木 夢 後藤 綾那 小峰 悠		
	渡邊 雄紀 月岡 亮介 末吉 奈緒		
第6学年	田中 憲聖 森田 真理 田中 悠介		
	坂野 文香 眞鍋 慧 横田 駿牙		

(歯科技工専門学校)

第2学年	瀧口 虎近
第3学年	山本 楓

(歯科衛生専門学校)

第2学年	小宇都陽香 前田 愛瑠
第3学年	鈴木 未来 高橋 歩花

〈第2種〉

(歯学部)			
第6学年	赤松 孝則 今仲 晏智 川崎 泰誠		
第5学年	佐々木康輔 山口 大翔		

= 日本大学古田奨学生 =

(歯学研究科)	
第4学年	武藤 玲

= 日本大学ロバート・F・ケネディ奨学生 =

(歯学研究科)	
第4学年	ZHOU YUE

= 歯学部同窓会奨学生 =

(歯学部)			
第6学年	青木 知香 江本日向子 田中 協大		
	福島 金龍 南 哲太 横山 晶		
第5学年	石田 創督 宮岸 佑奈		
(歯学研究科)			
第4学年	岡野 真之 西澤英里佳 西原 佑哉		
	星野 恵佑		

お知らせ

寄付金の受け入れ

＝研究助成金＝

50万円	クラレノリタケデンタル株式会社 歯科補綴学第Ⅲ講座へ (代表取締役社長 山口 里志 殿)	3.31
40万円	ULTRADENT JAPAN株式会社 歯科保存学第Ⅰ講座へ (代表取締役社長 鍛地 裕司 殿)	5.8
10万円	医療法人社団深敬会 吉野デンタルクリニック 感染症免疫学講座へ (理事長 吉野 晃 殿)	5.25
20万円	医療法人社団深敬会 吉野デンタルクリニック 歯科保存学第Ⅲ講座へ (理事長 吉野 晃 殿)	5.25

＝佐藤奨学・研究基金＝

50万円	日本大学歯学部後援会(会長 織井 弘道 殿)	3.31
------	------------------------	------

＝学校への補助費として＝

1,534万9千円	日本大学歯学部後援会(会長 織井 弘道 殿)	3.31
-----------	------------------------	------

＝日本大学歯学部教育研究資金＝

500万円	日本大学歯学部同窓会(会長代行 神尾 政治 殿)	3.26
-------	--------------------------	------

編集後記

大学には職員という教員ではない、もう一つの職制がある。教員が授業、研究、臨床等で皆さんの直接の指導に当たられるのに対し、職員は学生課、教務課等皆さんにとっても身近な課もあれば庶務課、管財課等学部の管理運営をバックヤードで支える存在で、普段皆さんとは直接関わりを持たない部署もある。その職員には人事異動で大学本部や他学部等に転勤がある。私も3ヶ月前に人事異動で本学部に着任したばかりだ。これまで文系の経験しかなかった私にとっては日々がとても新鮮だ。5月に行われた球技大会では学生同士また教員と学生の距離がとても近いことに感動した。6月の後援会総会、学年別懇談会、懇親会では御父母同士また御父母と教員も密接であることが分かり、これが100年以上の歴史と伝統を誇る日本大学歯学部の特長だと深く理解した。とても恵まれた環境であると思う。皆さんには次代にこの良き伝統を継承者として、繋いで行ってほしい。(M.H)



表紙及び裏表紙の写真は、佐藤紀子先生(健康科学分野)にご提供頂きました。裏表紙の写真は、上村梨音さん、高橋知聖さん(歯学部第3学年)にご提供頂きました。

